

# よんまち

## かけ橋新聞

yonmachi kakehashi newspaper

# #IO



TAKE FREE



よんまち新聞 vol.10 2022年12月 発行:福山駅東地区4商店街連携協議会(よんまち) 支援:福山商工会議所 企画・編集・デザイン:福山駅東地区4商店街連携協議会

## 今号でご紹介したお店MAP



## よんまちとは?

よんまちは、中心部東地区の、四つの商店街「きたはま通り商店街」・「船町宝船会商店街」・「本通商店街」・「本通船町商店街」が手を結んで「福山らしさ」を発信しようと2017年の6月に発足した「福山駅東地区4商店街連携協議会」の通称です。

この4商店街は、江戸時代に作られた2つの橋、「木綿橋」と「天下橋」という橋を共有しながら、城下町の中心地として栄えてきました。このきずなを大事にして、「地域の懸け橋、未来への懸け橋」を合言葉に各々の個性を発信し、福山駅東地区の活性化に連携して取り組もうとしています。

よんまち  
新聞



今号の表紙: 昭和49年 きたはま通りから見る福山城

1



2



3



4



柴田楽器店さんは、昭和5年創業の、三代続く琴(福山琴)・三味線の販売店。三代目となる柴田久志さんは楽器の修理や、琴の弦張り、調弦などを行う腕の立つ職人さんです。初代の久三郎さんが親戚の楽器店に修行に入ったことがきっかけに創業しました。

今回訪れたのは、JOY船町にある『柴田楽器店』さん。よんまちの中でも飲食店が多いJOY船町の中で、昔から変わらない佇まい。外から見ると、琴や三味線を扱うお店だと一目で分かります。福山の街中で、このような伝統的な楽器の専門店はい、今回、お店の看板娘である奥様の柴田澄子さんにお話を聞きました。

三代続く、  
腕の立つ職人の家。

お父様である二代目の喜代久さんは、戦争中は腕の器用さを買われ、コックをされていたそうで、職人肌で笑顔の似合う人柄の良い方だったそうです。中学の頃より三味線の皮張りをお父様から習ってきた三代目の久志さんは、父親譲りの器用さと高い技術から、その腕を頼って現在も全国から修理の依頼があります。

「扱っている楽器の華やかな印象とは違って、うちは男の仕事なの。糸を張るの力がいるし、舞台へ楽器を運んだり。本当に力仕事なの。」  
長年、お店に立ちながら、職人である旦那様の仕事を見守ってきた奥様の澄子さんは言います。

1-4.  
琴や三味線を中心に、舞踊に関するものも販売しています。お琴に使う小物入れや本入れは 普段にも使用できるので「私には用がないなあ」と思われる方でもちょっとした和のお洒落にピッタリのものもあります。



よんまち人に  
会いに行く。

今号のよんまち人

JOY船町 柴田楽器店 柴田 澄子さん

『人との関わりを楽しむ場所』

欲しいものがあつたとき、ネットですぐにも買えるかもしれないし、大きな店に行けば簡単に手に入るかもしれませんが、だれどそれだけでは得られないものがあるのが商店街。お店の人の顔を知る、話をすることから生まれるほっこりした時間はお金では得られない特別なもの。生活の安心感にも繋がります。よんまち新聞はお店の「人」をお伝えすることで、そんな商店街と訪れる人との関わりを繋げたいと思います。



支えてきたのは  
温かい会話と  
確かな技術。

琴、三味線は伝統的な格式高いイメージがある世界ですが、お店に立つ奥様の澄子さんはとても朗らかでチャーミングな方。ご近所でもある神野ガラス店の神野さん曰く、「とっても面倒見がよくて、おしゃべりが大好きな人。みんなに慕われてる。」とのこと。

古くからご近所同士のお二人は大の仲良し。お茶を淹れたら声を掛け、ランチに行き、お二人の話を聞いていると、こちらもほっこりとした懐かしい気持ちになります。「(神野さんのおばあちゃんのお豆の煮たやつは本当に美味しかったよね。」「そうね。あの味は私もやってみるんだけど、なかなか出せない。」新しいお店が増えても、どこか懐かしいJOY船町の雰囲気は、このお二人の存在からだろうなと、会話を聴きながら思いました。

最後に、ご主人の側でお店を支えてきた澄子さんに、ご商売の心得を聞くと、ニコニコしながら「主婦をしていて、気づいたらお店に立ってたの。心得は特にないけど話をするのが好き。商売つがあんまりないのね(笑)」澄子さんの飾らないおっとりした人柄と、職人気質のご主人の久志さんの確かな腕前。福山琴の販売店として、いろんな人にその音色を橋渡しをするお店の存在は、これからも福山の琴の文化を守り続けていくだろうなと思います。

1.2.笑顔が素敵な澄子さんと、ご近所の神野さん。  
3.澄子さんと神野さんは、演歌歌手の竹島宏の大ファン。商店街をはじめ、福山市近郊の名所を舞台に、youtubeで麦畑トリオとして踊りを配信しています。

福山は  
お琴の町です。

柴田楽器店さんで、ひとときを引くのが、ズラリと並んだ美しい琴。福山琴は伝統工芸品として認定された唯一の楽器であり、また国内の多くの琴が、ここ福山市で製造されています。

福山琴の歴史をたどると、1699年に水野勝成が福山に城を築いた頃に始まると言われています。城下町では、武士や町人の子女の芸事が盛んであり、歴代藩主の奨励もあって歌謡・音曲が盛んに行われました。江戸時代の後期には、琴の名手で知られる葛原勾当が京都に琴の修行に行き、福山に帰郷した際、備中や備後に琴を広めたとされています。それに合わせて、琴の需要が増えていったとされています。

「城下町という場所は、藩が奨励する文化や産業があつて、今でもその土地ならではの文化として、受け

継がれています。例えば、松江ならお茶の文化。金沢なら漆工、金工とか。ここ福山では、産業では木綿や畳、音楽ではお琴です。今では昔に比べて琴を弾く人は少なくなってきたけれど、今でも毎年、全国小中学生琴コンクールがここ福山でされているんですよ。私たちの住む福山市は「お琴の生産日本」という土地柄。だから本当に良いお琴、音色の素晴らしいお琴を吟味しています。もつと皆様が琴を身近な存在として楽しめるように、私たちが真心を持って一生懸命頑張りたい。」



琴の等級は桐の木目の年輪で決まるそうです。複雑な木目ほど美しく、また音色も響きもよく、高級品になります。模様は全てことなる1点ものです。琴の上部を「甲」と言い、甲の裏側には精密な彫りが施され、音響効果に大きな役割を果たします。

歌って踊って麦畑トリオが笑顔をおすそ分け！

柴田楽器店の澄子さんと神野ガラス店の神野さんは、演歌歌手の竹島宏の大ファン。「みんなに元気を届けたい！」その想いから、お友達3人組で麦畑トリオを結成し、施設への慰問をはじめ、福山市近郊の名所を舞台に、youtubeで踊りを配信しています。商店街の元気な奥様の可愛らしく、楽しく、かっこいい踊りは、竹島宏ファンの中でも話題沸騰中！



「恋町カウンター  
麦畑トリオ」で検索！



MAP  
1 柴田楽器店

福山市船町1-23  
☎・FAX 084-924-2848  
Open / 9:00-19:00  
定休日 / 木

HP



# New Open !!

癒しの空間で劇的効果のエイジングケア  
はんなり beauty lounge



室内に入るとほっとした空間。優しい笑顔で迎えてくれたのは、オーナーの吉本百恵さん。ここは女性限定のエイジングケアに特化したエステの専門店「はんなり」さん。さすが40代とは思えないほどの美しさに驚くばかりですが、元々は美容デザイナーだった吉本さんが美容に目覚めたのは、長年の不妊治療の薬の副作用で肌がボロボロになったことがきっかけだったそうです。

「子供を授かったのは本当に嬉しかったけど、やはり落ち込みました。その時に探したもので、自分の肌を激変させたので、自分の効果を体験したものを、このお店で皆さんに共有しています。」

吉本さんが自信を持ってオススメするのは「ヒト幹細胞スキンケアお試しコース」。しみ、しわ、たるみのエイジングケアに特化したスキンケアを主とした本格的なコースから、仕事で忙しい方でも隙間時間にできるコースなど充実。「医療と違って立証がされない世界だけど、同じ体験をした人間として、本当にいいものだけを共有しています。ぜひ本物に出会う体験にお越し下さい。」

MAP  
3 はんなり beauty lounge HP

福山市船町1-21  
☎084-999-6519  
Open / 10:00~18:00  
最終受付16:30  
※営業時間情報は現状と違う可能性があります。  
くわしくは直接店舗までお問い合わせください。



instagram



1-3北海道出身で現在福山市在住の吉本さん。福山は街の人が優しく、とっても気に入っているそうです。実体験を元にした寄り添いの気持ちと本物へのこだわり、確かな技術に信頼を寄せるお客様も多い。

2-4-5-6建物全体がリラックスできる空間で、中に入れば日頃の疲れも癒されます。



# New Open !!

みんなのやりたいことを広げていく場所  
スペース/デザイン/ギャラリー sankaku



今年5月、本通船町に可愛らしいギャラリーができました。その名もsankaku(サンカク)。

この建物はオーナーである画家の和田道雄さんの生家。高校の美術教員を退職後、奥様の大沢純子さんと一緒にDIYで内装を仕上げました。手塗りの白い壁面を窓からの光が包み込み、大きな作品も小さな作品も映える空間です。

「作家の中には、才能があっても居場所がない、仲間がない、手応えがないことで続かない方もいる。繋がりを作れる、情報を得る、励みになる、そんな場所にしたい。」

ここで展示をした人は、来る人からも元気を貰って、どんどん顔が活き活きするんですよ。」

作品の展示販売の他にも、作りたい、学びたい、教えたい、見せたい人の活動を広げるための、ワークショップ・教室・ミニコンサートにも使える空間です。

画家の和田さんとイラストレーターである奥様とデザイナーの娘さん。3人の得意分野で、みんなのやりたいことを広げていくお手伝いをするsankakuさん。商店街にできた新しい発信場所に、ぜひ気軽に足を運んでみてください。

MAP  
2 スペース/デザイン/ギャラリー sankaku

福山市船町5-11  
☎070-3775-3339  
mail:info@3sankaku.com  
Open / 12:00-19:00  
定休日 / 月・火

その場でLINE友だち追加した方にステッカーをプレゼント!

HP



instagram



1. 画家の和田道雄さんと奥様であるイラストレーターの大沢純子さん。優しく真面目な和田さんと、明るく元気な大沢さんのほっこりしたやりとりは、見ていて本当に元気が出ます。

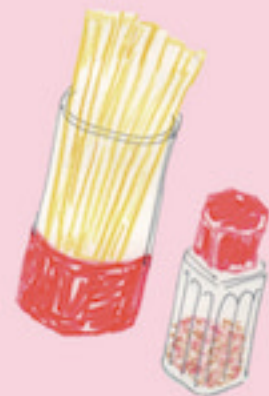
2-6中に入ると大きな開口部に大きな白い壁面。外からは分からないくらい開放的で広々とした空間でした。



編集部の食レポ



# 今号のうまいもん



中華ダイニング青冥の冷凍中華



ぜいたくなお家ごはん  
美味しさ、鮮度そのままの本格冷凍中華



今回ご紹介するのは、JOY船町の老舗中華料理店「中華ダイニング青冥」さんの冷凍本格中華！開発に1年かかった、保存料なし、急速冷凍の中華は、麻婆豆腐の味がそのまま再現できる麻婆ソースやエビチリソース、シウマイ、さらに高級料理のフカヒシの姿煮まで、お店の人気の味が手軽にそのまま楽しめます。

お求めは店頭、自社サイト、さらに延広町有料駐車場の一角にある鳥居前 宮通じはんき商店街(福山市延広町7-7)で、冷凍自販機で24時間提供しています。4,500円のフカヒシも自販機で買えちゃうよ♪



MAP 5 中華ダイニング青冥  
福山市船町4-1  
☎084-931-3505  
営業: 11:30~14:30(LO14:00)  
夜: 18:00~22:00(LO21:00)  
休木曜日※祝日の場合は翌日  
chuukadining-ching-ming.com



編集後記

よんまち新聞は、4つの商店街「きたはま通り商店街」・「船町宝船会商店街」・「本通商店街」・「本通船町商店街」が共同で発行する商店街の「面白いこと・人」を集めたフリーペーパーです。いまだコロナ禍ではありますが、4つの商店街では恒例のイベントも開催され、少しずつ日常を取り戻しつつあります。今号からは、よりお店の「人」を焦点として、人と人をつなぐツールとして冊子を目指していきます。

今回のよんまち新聞にご協力いただいた方々  
取材協力:  
柴田澄子さん(柴田楽器店)  
和田道雄さん・大沢純子(sankaku)  
吉本百恵さん(はんなりbeauty lounge)  
藤井智さん・友絵さん(コンペイトウカイカン)  
中華ダイニング青冥さん  
写真提供: 佐藤万年筆店さん・高野耕石堂さん・福山商工会議所  
企画・制作  
よんまち編集部 安原幸雄(株式会社安原楽器) / 木村桃子

よんまち新聞

# New Open!!

あなただけの隠れ家レンタルスタジオ  
コンペイトウカイカン



若いご夫婦が運営する隠れ家的レンタルスペース「コンペイトウカイカン」さん。玄関に入ると広々としたスペースに机、キッチン、冷蔵庫、トイレ、ミシンも完備。2階は裏口からも入れるようになっていて、一面鏡張りの大部屋はレッスンに最適な空間。元々はデイサービスの施設だった建物を活用した清潔感のあるアットホームな、誰にでもどんな用途に使いやすいレンタルスタジオです。「今はパーソナルトレーニング、ヨガ、バイオリン、篠笛、ダンスの練習、会議、教室などに、時間貸しで使っていただいています。」  
県外が長かったご夫婦。この建物は元々は旦那様のご実家が薬の卸をしていた場所。街との連携や人との関わりにも意欲的です。「いろんな人と繋がっていきながら、どういう使い方ができるかと一緒に考えたり、人と楽しみながら、今後の可能性をどんどん広げていきたいですね。」  
基本料金は1時間1000円から。1日(9時~10時)は8000円から。他にもお得な週一プラン、半日プランなどもあります。お気軽にご相談ください♪

MAP 4 コンペイトウカイカン

福山市今町2-5  
☎090-9875-9714  
休不定休



1.3藤井智さんは元々は服のデザイナー、奥様の友絵さんはキャンドル作りでイベントに出店するなど、作家夫婦の一面も。

2.4.5この日はママ友の集まりがあり、靴を脱いでくつろげる空間に子どもたちも安心して大はしゃぎ。キッチンもあるのでパーティーなどの使い方もいいですね。

6.コンペイトウカイカンの名前は、金平糖が大好きなお母様がつけたそうです。なんとも可愛らしいエピソード。



# ノスタルジック写真



昭和29年 船町宝船会とんど



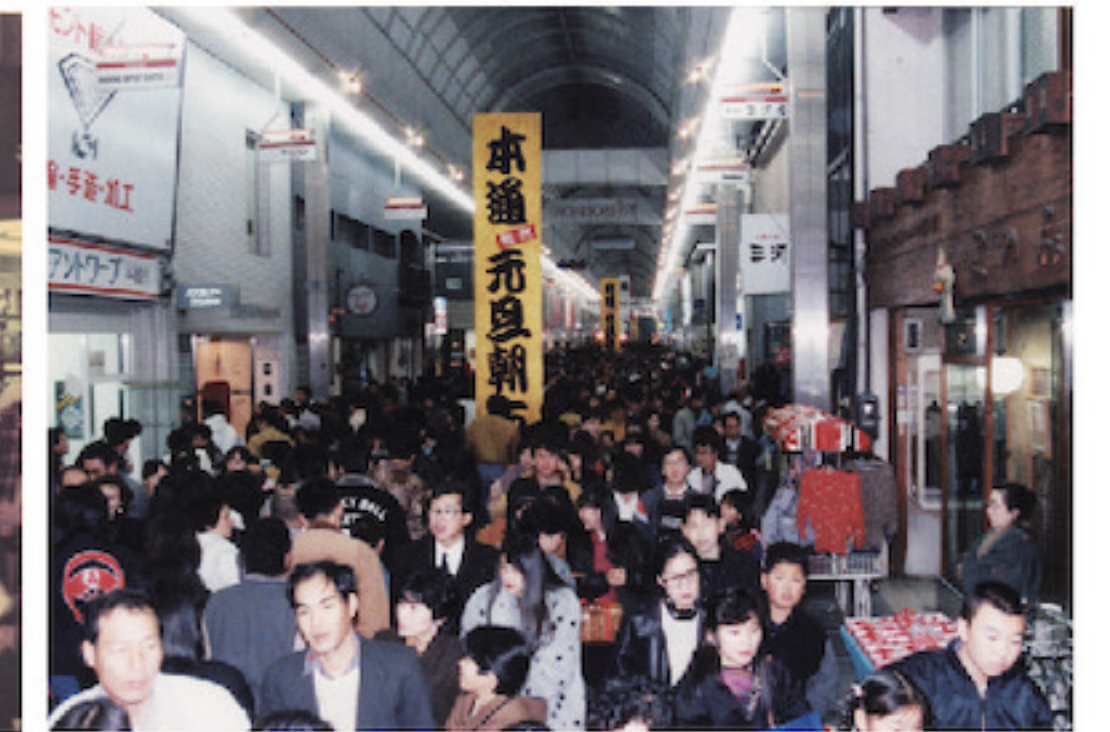
2006年 きたはま通りの完成式典のとんどの練り歩き



昭和28年 船町宝船会とんど



本通商店街 元旦朝市の様子



本通商店街 元旦朝市の様子

## 商店街の昔の写真が大募集！！

よんまち新聞編集部では、商店街が映った写真や、当時のお店や人の様子がわかる写真などを募集しています。  
 (対象/本通商店街・本通船町商店街・JOYふなまち・きたはま通り商店街)  
 撮られた年代やどのような時に撮られたものか(分かれば大丈夫です)写真と一緒に添えて下さい。  
 いただいた写真の中から編集部で選んだものを、よんまち新聞にて紹介させていただきます。  
 写真はカラーコピーしたものを下記の住所宛に、またはスキャンしたものをメールで送付下さい。

〒720-0046 郵送 広島県福山市今町2-9 よんまち編集部 メール kimkimjapan@icloud.com

今回のノスタルジック写真は、本通商店街のイベントの写真(元旦朝市など)、きたはま通り、船町宝船会のとんど祭りの様子です。  
 本通商店街の元旦朝市は、昭和51年より始まりました。全国で最初に元旦朝市が行われた商店街であり、現在では、各地の商店街で、実施されています。  
 大晦日には多くの人が本通商店街に集まり、元旦の瞬間をみんなで祝いながら、各店の福袋などを買い歩きました。  
 このイベントは全国でも評価され、昭和59年には日本商工会議所会頭賞を受賞しています。

福山とんどは、江戸時代に福山城築城を祝って、各町がとんどの頂にお飾りを付けて練り歩きをしたことから始まった福山の伝統芸能です。  
 大きな宝船のとんどは、船町宝船会を象徴するシンボルであり、街の子どもたちがたくさん参加して、今も昔も元気なお囃子を響かせています。  
 2006年には、きたはま通りの完成を祝って、通りの練り歩きを行いました。